

おっしょい！！健康情報
(令和7年7月)

がん予防シリーズ

『肺がんについて』（知識と予防）

街の緑がだんだん濃くなり、いよいよ夏本番ですね。今年もとても暑いですが、熱中症にはくれぐれも気を付けましょう！しっかり朝食をとり、十分な睡眠を心がけてくださいね。

今回は、「肺がんについて」を保健師『ショコラ』がお届けします。

★肺がんとは

肺がんは、気管支や肺胞の細胞が何らかの原因でがん化したものです。進行すると、がん細胞は周りの組織を壊しながら増殖し、血液やリンパ液の流れなどによって転移することもあります。2023年の統計によると、部位別のがんによる死亡率では、男性は第1位、女性は第2位が「肺がん」となっております。

★肺がんの症状

早期には症状がみられないことが多く、進行して初めて症状が出ることもあります。主な症状としては、咳や痰、血痰（痰に血が混じる）、胸の痛み、動きに伴う息苦しさや動悸、発熱などがあげられます。

★肺がんの予防と検診

喫煙は肺がんの危険因子の一つです。喫煙者は非喫煙者と比べて男性で4.4倍、女性で2.8倍肺がんになるリスクが高いといわれています。たばこを吸っている人は禁煙が必要です。

また、受動喫煙（周囲に流れるたばこの煙を吸うこと）も肺がんになる危険性を2～3割程度高めます。職場でも家庭でも、煙を吸わない環境づくりが大切です。それからもう一つ大切なこと、それは年に1回検診を受けることです。

★肺がん検診

肺がん検診の対象者は40歳以上で、内容は、問診、胸部X線検査と喀痰細胞診（喀痰細胞診については原則として50歳以上で、喫煙指数（1日の喫煙本数×喫煙年数）が600以上の人が対象）です。

問診では、喫煙歴、職歴、血痰の有無、妊娠の可能性の有無、過去の検診の受診状況などを確認します。

胸部X線検査は、いわゆるレントゲン検査のことです。肺にがんを疑う影がないか調べるために胸部全体にX線を照射して撮影します。主に健康診断やがん検診に用いられます。皆さんが受けられている協会けんぽの「生活習慣病予防健

診」の内容にも含まれています。

もし、検診の判定が「要精密検査（がんの疑いあり）」となった場合は、精密検査ができる呼吸器専門の医療機関を受診して、必ず精密検査を受けましょう！

※参考文献

厚生労働省ホームページ>がん対策>がん検診>国立がん研究センター がん情報サービス>肺がん/
「有効性評価に基づく肺がん検診ガイドライン 2025 年度版 厚生労働省ホームページ>統計情報・白
書>人口動態調査>2023 人口動態統計（確定数）第 7 表